
人間中心AIライフテックコンソーシアム 2026年度事業計画

2026年6月18日

国立研究開発法人 産業技術総合研究所

人工知能研究センター

多田 充徳

1. 名称

人間中心 AI ライフテックコンソーシアム (Human-Centered AI LifeTech Consortium)

2. ホームページ

<https://www.airc.aist.go.jp/hail/>

3. 趣旨

本コンソーシアムは、見守り AI センサを中心とする AI ライフテックの安全性・信頼性を、人間中心の視点から確保し、社会実装を促進することを目的とする。

カメラのような見守り AI センサは、取得可能な情報量が多く、利用シーンに応じた多様な状態把握が可能であることから、今後のケア・ライフテック分野において重要な役割を果たすことが期待される一方で、精度評価や安全性検証の方法が十分に確立していないこと、およびプライバシーや社会受容性に関する課題が依然として残されており、これらが社会実装における大きな障壁となっている。

本コンソーシアムでは、これらの課題に対し、AI ライフテックの技術・インフラ提供者、利用現場の関係者、ならびに評価・研究を担う機関が一体となった議論を通じて、技術的観点と社会的観点の双方から検討を行い、技術的合意形成 (Technical Consensus) と社会的合意形成 (Social Consensus) を並行して推進する。

本コンソーシアムでは、この議論を支える手段として、正常な生活行動や転倒などの異状行動を含む動画データセットや、生活空間を模した環境において詳細な運動計測が可能なりビングラボ等の研究リソースを活用する。これらを用いて、AI ライフテックに内在するリスクを明確化するとともに、それに対応する評価・検証方法論および運用に関する指針を整理し、評価の観点や運用ルールに関する知見を集約・体系化する。これらの取り組みの成果を、ガイドラインやホワイトペーパーとして発信し、将来的な制度設計や標準化につなげる。

4. 活動内容

このために、人間中心 AI ライフテックコンソーシアムでは、ワーキンググループを中心とした検討の結果を、コンソーシアムとして整理・統合した上で成果の発信を行う。さらに、コンソーシアムの活動に必要な調査を随時実施し、ワーキンググループにおける検討と相互に循環させながら議論の基盤を形成する。

ワーキンググループについては、技術、受容性、実証の三つを設置し、それぞれ異なる役割を担いながら、見守り AI センサに関する検討を進める。

技術ワーキンググループでは、見守り AI センサの精度、頑健性、安全性に関する考え方や、評価に

おける動画データセットの活用などの技術的側面に関する議論を行う。受容性ワーキンググループでは、見守り AI センサの生活空間への導入を前提として、プライバシーへの配慮や心理的受容性、運用上の留意点などの社会的側面に関する議論を行う。実証ワーキンググループでは、技術ワーキンググループおよび受容性ワーキンググループからの要請に基づき、フィジカルリビングラボを活用したデータ取得や検証を行う。

初年度である 2026 年度は、コンソーシアムの立ち上げフェーズとして、見守り AI センサに関する実態把握を目的とした調査を実施する。あわせて、各ワーキンググループにおける具体的な活動内容や取り組みについて検討を行い、ワーキンググループ活動を段階的に本格化させる。本年度の活動においては、以下の点について会員の意見を反映しながら検討を進める。

- ・ 見守り AI センサに関する実態把握のための調査内容に関する要望
- ・ ワーキンググループ活動の進め方に関する要望
- ・ 動画データセットの内容や動画に付与するアノテーションに関する要望

5. 運営体制

人間中心 AI ライフテックコンソーシアムは、産業技術総合研究所内の産学官連携コンソーシアムとして設立する。本コンソーシアムの運営は、産業技術総合研究所コンソーシアム規程に基づき定められた運営会則に従って行う。役員として、会長 1 名、副会長若干名、幹事若干名およびアドバイザー若干名を置く。また、会長、副会長および幹事により構成される運営委員会を設置する。

本コンソーシアムの会員資格には、正会員、賛助会員および特別会員の三つがある。正会員は、本コンソーシアムの事業に参画する団体または個人であり、総会において議決権を有する。賛助会員および特別会員は、総会およびワーキンググループにオブザーバーとして参加することができる。

本コンソーシアムの運営に必要な経費は、本コンソーシアムの趣旨に合致した公的予算をもって充当する。事業計画および事業報告、収支に関する事項は総会で報告し、承認を得る。また、事業の進捗については運営委員会において確認し、必要に応じてその内容を見直す。

コンソーシアムの事務局は、産業技術総合研究所 人工知能研究センターに置くものとするが、その業務の一部については、必要に応じて外部に委託することがあり得る。本コンソーシアムの設置期間は、2027 年 3 月 31 日までとする。

6. 開催場所

ハイブリッド開催：

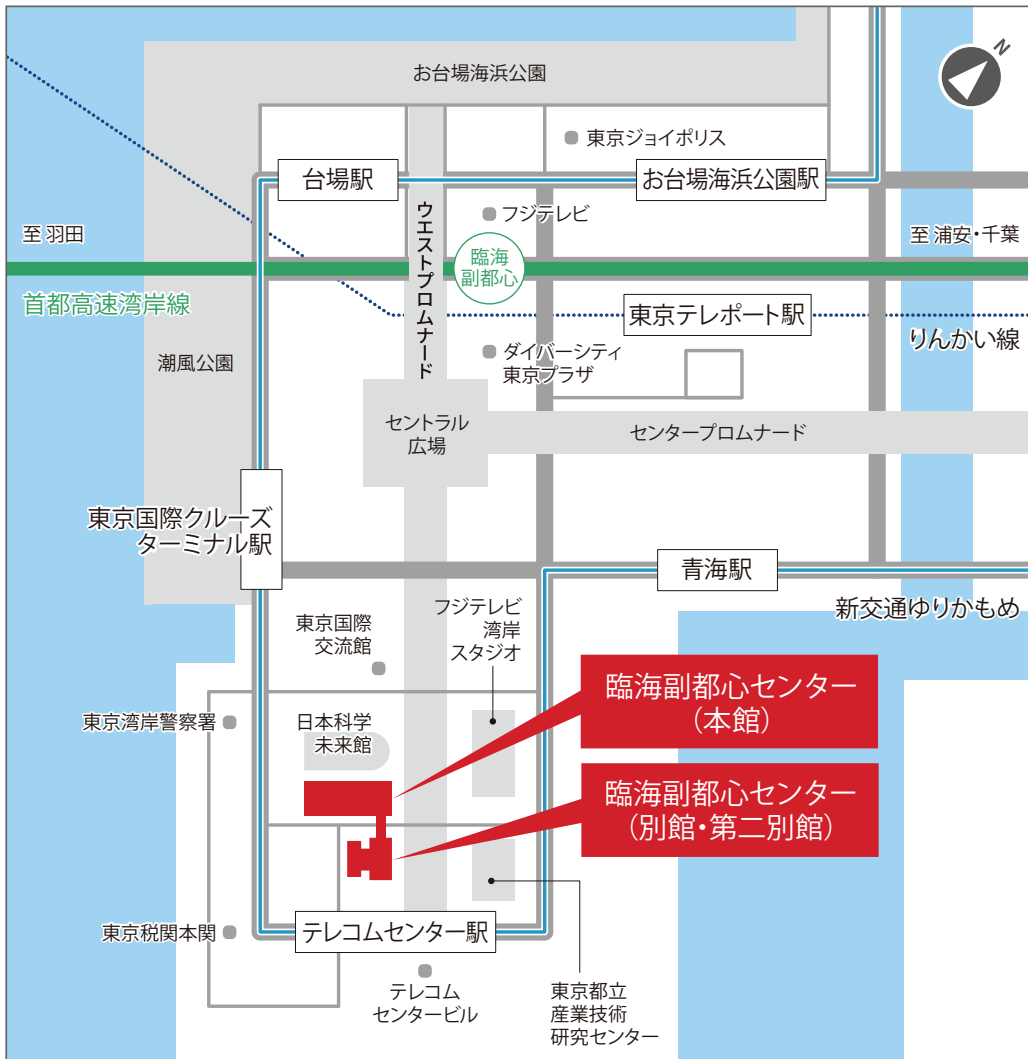
オンライン：Teams

オンサイト：産業技術総合研究所 臨海副都心センター 本館 4階 第1会議室

〒135-0064 東京都江東区青海 2-3-26

ゆりかもめ線・テレコムセンター駅下車 徒歩3分

<https://www.aist.go.jp/waterfront/ja/access/>



7. 開催スケジュール

見守り AI センサに関する調査を主軸としつつ、介護技術の標準化、社会受容性評価に関する講演会も併せて実施する。また、第 2 回以降の会合においては、ワーキンググループの具体的な運営方法や活動内容に関する議論を段階的に進め、実効的な推進体制の構築を図る。

第 1 回 2026 年 6 月 18 日 (木) 13:00 から 17:00

- ・ 総会
- ・ コンソーシアムの概要説明
- ・ ワーキンググループの概要説明
- ・ 見守り AI センサに関する調査の概要説明
 - 調査の全体像および基本的な調査項目に関する説明
 - その後約 1 か月間会員からの調査項目に関する要望を受け付け

2026 年 7 月中旬 調査項目に関する要望締め切り

第 2 回 2026 年 8 月 4 日 (火) 13:00 から 17:00

- ・ 見守り AI センサに関する調査内容の報告
 - 最終的な調査項目および調査内容に関する報告

第 3 回 2026 年 10 月 8 日 (木) 13:00 から 17:00

- ・ 介護の質の標準化に関する話題提供

第 4 回 2026 年 11 月 10 日 (火) 13:00 から 17:00

- ・ 臨海副都心センターリビングラボ見学会
- ・ 動画データセットの概要説明

第 5 回 2026 年 12 月 10 日 (木) 13:00 から 17:00

- ・ 見守り技術の受容性評価に関する話題提供

第 6 回 2027 年 2 月 4 日 (木) 13:00 から 17:00

- ・ 見守り AI センサに関する調査結果の報告
 - 調査結果の全体像および主要な知見に関する報告
 - ・ 総会
-

8. 2026 年度会費

会員の種別	年会費
正会員	無料
賛助会員	無料
特別会員	無料

9. 2026 年度収支計画

	費目	金額	備考
収入	正会員会費	0	今年度は会費無料
	賛助会員会費	0	今年度は会費無料
	特別会員会費	0	今年度は会費無料
	コンソーシアム運営費	8,600,000	
	合計	8,600,000	

支出	事務局備品	500,000	
	事務局消耗品	100,000	
	事務局人件費	2,000,000	
	リビングラボ保守	1,000,000	
	見守りセンサ調査	5,000,000	
	合計	8,600,000	